

佐賀県研究成果情報

ブドウ「巨峰」の環状はく皮処理時期の拡大					
[要約]ブドウ「巨峰」の品質向上のための環状はく皮処理時期は、従来の満開30～40日後より遅い満開65日後まで処理時期を拡大しても一粒重や酸度への影響はなく、糖度が高くなり、着色が向上し、早期収穫ができる。					
果樹試験場・落葉果樹研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果	樹	専 門	栽 培	対 象
					ブドウ

[背景・ねらい]

本県のブドウ栽培は、結実が不安定なことや梅雨期の多雨、日照不足等のため着色不良などの品質低下をきたしている。その対策として満開30～40日後に環状はく皮処理を行って品質向上に効果をあげているが、満開40日後以降の硬核期から水回り期に処理した場合の品質向上効果については不明である。そこで、満開40日後以降の環状はく皮処理による品質向上効果を明らかにし、処理時期の拡大による効率的な環状はく皮技術を確立することで計画的な出荷・販売を行い、農家所得の向上とブドウ産地の活性化を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 満開30～65日後に幅20mmの環状はく皮処理(図1、図2)をすると、処理時期に差はなく、無処理に比べ着色、糖度が明らかに向上する(表1、図3)。
2. 環状はく皮処理をしても一粒重や酸度に影響はない(表1)。
3. 環状はく皮部位は、処理時期にかかわらず約1ヶ月で癒合する(データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. ブドウ「巨峰」の品質向上と熟期促進技術として活用できる。
2. 環状はく皮は癒合が不完全な場合は樹勢低下の恐れがある。
3. はく皮部は約1ヶ月で癒合するが、害虫による食害を受けると樹勢低下の恐れがあるので、スカシバ類、コウモリガの食害に注意し、必要に応じて殺虫剤を散布する。
4. 着果過多は着色不良を招く大きな要因であり、環状はく皮の効果も劣るので必ず適正着果量(1.2～1.5t/10a)を守る。

[具体的データ]

処理位置
(主幹部)



図1 はく皮位置

図2 処理直後の状況

第1表 無加温ハウス栽培「巨峰」における環状はく皮の処理時期が
収穫時の果実品質におよぼす影響²⁾

試験区	果房重 (g)	粒数	一粒重 (g)	着色 ³⁾	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)
(2005年 根域制限有)						
満開35日後はく皮区	361.1a	34.2a	10.6a	8.9b	19.6a	0.56b
満開65日後はく皮区	360.8a	34.4a	10.5a	9.9a	19.9a	0.58a
無処理区	349.8a	32.7a	10.7a	7.9c	19.0b	0.58ab
(2006年 根域制限無)						
満開30日後はく皮区	337.4a	30.6a	11.0a	7.6a	18.6a	0.62b
満開45日後はく皮区	325.6ab	28.5a	11.5a	6.3b	17.3b	0.60b
満開60日後はく皮区	341.8a	31.5a	10.9a	6.7ab	17.2b	0.61b
無処理区	291.2b	29.8a	9.8b	4.4c	15.0c	0.68a

²⁾ 2005年は8月22日、2006年は8月28日調査、

³⁾ 着色はカラーチャート値

⁴⁾ 同一列内の異なる英字は Tukey-Kramer の HSD 検定 5%水準で有意差あり



満開 30 日後処理

満開 45 日後処理

満開 60 日後処理

無処理

図3 環状はく皮処理時期の違いが収穫時の着色におよぼす影響(2006年)

[その他]

研究課題名：水田転換園に適したブドウ「巨峰」の新栽培体系の確立

予算区分：県単

研究期間：2001～2006年度

研究担当者：福田浩幸、稲富和弘、加藤恵

発表論文等：2005～2006年度落葉果樹試験研究成績概要集